

犬の飼い方実用書 全30話

著者 安田大介

第1話…迎え入れ初日～1週間の過ごし方	4
第2話…安心できる居場所作り（寝床・ケージ・隠れ家）	10
第3話…トイレの教え方と失敗時のリカバリ	17
第4話…ごはんの選び方（年齢・体格・体調）	24
第5話…お水をしっかり飲ませる工夫	29
第6話…社会化と「怖い」を増やさない接し方	36
第7話…甘噛み・噛み癖の基本対策	41
第8話…鳴き声・夜鳴きの原因別アプローチ	47
第9話…留守番の練習（分離不安の予防）	57
第10話…お散歩／運動の適量と遊び方	63
第11話…ブラッシング・被毛ケアのコツ	71
第12話…爪切り・肉球・手足を触れる練習	78
第13話…耳・目・歯のケアを習慣化する	83
第14話…ニオイ対策（トイレ・体臭・部屋）	91
第15話…誤飲誤食の防止チェックリスト	99
第16話…季節の注意（暑さ寒さ・湿度）	104

第17話…来客 ・ 子ども ・ 他の動物との付き合い方	110
第18話…多頭飼いのコツ（先住優先 ・ 相性）	116
第19話…ストレスサインの見つけ	122
第20話…病院が苦手な子の通院練習	129
第21話…ワクチン ・ 予防 ・ 定期健診の考え方	136
第22話…シニア期の暮らし（段差 ・ 食事 ・ 運動）	142
第23話…肥満予防と体重管理（簡単ルール）	148
第24話…問題行動の「前兆」をつぶす観察術	155
第25話…災害対策（キャリー ・ 避難 ・ 備蓄）	163
第26話…写真 ・ 動画で健康を記録する方法	170
第27話…家計管理（フード ・ 医療 ・ 保険の配分）	176
第28話…保護／譲渡の前に知っておくこと	182
第29話…飼い主のメンタルケア（罪悪感 ・ 不安）	190
第30話…我が家のルールブック作成	196

第1話…迎え入れ初日〜1週間の過ごし方

ワンちゃんとの新しい生活、心待ちにしていた日が来ましたね🎉！でもちよつと待って。初日は飼い主さんもワンちゃんもドキドキ💓。この最初の1週間が、今後の関係を大きく左右すると言っても過言ではありません。この記事では、ワンちゃんが安心して新しい家族の一員になれるよう、具体的な方法と注意点をお伝えします。焦らず、ゆっくりと、愛情たっぷりな1週間を過ごしましょう。

✔ 今日の結論

ワンちゃんを迎え入れた最初の1週間は、無理せずゆっくりと環境に慣らすことが最優先です。愛情を注ぎつつも、過剰な干渉は避け、ワンちゃんのペースを尊重しましょう。

💡 なぜこの問題が起きるのか

新しい環境は、ワンちゃんにとって不安がいっぱい🤖。今までいた場所から引き離され、見知らぬ人たちに囲まれるのですから無理ありません。

- ・分離不安…飼い主さんと離れるのが不安で、吠えたり物を壊したりすることがあります。
- ・警戒心…新しい場所に慣れず、隅に隠れたり、近づく人を警戒したりします。
- ・食欲不振…ストレスで食欲が落ちることがあります。
- ・排泄の失敗…トイレの場所が分からず、失敗することがあります。
- ・睡眠不足…落ち着かず、なかなか寝付けないことがあります。

これらの問題は、ワンちゃんが新しい環境に慣れるまでの間、一時的に起こるものです。焦らず、根気強く対応することで、必ず解決できます。

具体的なやり方 ・コツ

迎え入れる前の準備

- ・安全なスペースの確保…サークルやケージを用意し、ワンちゃんが安心して休める場所を作りましょう。
- ・トイレの準備…トイレトレーとペットシートを設置し、排泄の場所を教えます。
- ・食事の準備…フードと水を用意し、いつでも食べられるようにしておきましょう。
- ・おもちゃの準備…安全なおもちゃを用意し、遊びを通してコミュニケーションを取りましょう。
- ・動物病院の確認…近所の動物病院を調べておきましょう。

迎えに行くとき

- ・キャリーバッグの準備…ワンちゃんが安心して入れるキャリーバッグを用意しましょう。
- ・安全運転…急ブレーキや急発進は避け、安全運転を心がけましょう。
- ・話しかける…優しく話しかけ、安心させてあげましょう。

迎え入れた当日

- ・静かに迎え入れる…大きな声を出したり、急に触ったりせず、そっと見守りましょう。
- ・自由に探検させる…サークルから出して、自由に部屋の中を探検させましょう。

- ・トイレの場所を教える…落ち着いたらトイレに連れて行き、排泄を促しましょう。

- ・食事を与える…フードを少量与え、食欲があるか確認しましょう。

- ・無理に触らない…ワンちゃんが警戒している場合は、無理に触らないようにしましょう。

- ・最初の夜…サークルで寝かせ、不安な場合は飼い主さんの匂いがついたタオルを入れてあげましょう。

2日目〜1週間

- ・短い時間の散歩…外の環境に慣らすため、短い時間の散歩から始めましょう。

- ・遊びの時間…おもちゃで遊んだり、体を撫でたりして、コミュニケーションを取りましょう。

- ・トイレトレーニング…排泄のタイミングを見計らってトイレに連れて行き、成功したら褒めてあげましょう。

- ・社会化…他の犬や人に会わせる場合は、少しずつ慣らしていきましょう。

- ・獣医さんの診察…健康状態をチェックしてもらい、必要な予防接種や健康診断を受けましょう。

- ・褒めることと無視すること…良い行動をしたら褒め、悪い行動をしたら無視しましょう。

- ・根気強く教える…トイレや甘噛みなど、根気強く教えることが大切です。

- ・愛情を注ぐ…たくさん話しかけたり、撫でたりして、愛情を伝えましょう。

食事について

- ・最初は同じフード…ブリーダーさんやペットショップで与えていたフードと同じものを与えましょう。

- ・徐々に切り替え…新しいフードに切り替える場合は、少しずつ混ぜて、徐々に割合を増やしていきましょう。
- ・決まった時間に与える…食事の時間を決め、規則正しい食生活を送りましょう。
- ・おやつは少量…おやつはトレーニングのご褒美として与え、与えすぎには注意しましょう。
- ・人間の食べ物はNG…人間の食べ物はワンちゃんにとって有害な場合があるので、与えないようにしましょう。

睡眠について🐾

- ・静かな場所…静かで暗い場所で寝かせてあげましょう。
- ・安心できる環境…サークルの中にタオルや毛布を入れて、安心できる環境を作りましょう。
- ・夜鳴き対策…夜鳴きをする場合は、優しく声をかけたり、サークルに近づいたりして、安心させてあげましょう。
- ・添い寝はNG…添い寝は依存心を高める可能性があるので、避けましょう。

散歩について🐾

- ・最初は短い時間…最初は10分程度の短い時間から始め、徐々に時間を延ばしていきましょう。
- ・安全な場所…交通量の少ない安全な場所を選びましょう。
- ・リードを付ける…必ずリードを付け、ワンちゃんが自由に動き回らないようにしましょう。
- ・拾い食い防止…落ちているものを拾い食いしないように注意しましょう。
- ・排泄物の処理…排泄物はきちんと処理しましょう。
- ・他の犬との接触…他の犬に会わせる場合は、お互いの安全に配慮しましょう。

 チェックポイント

✓ 環境

- ・安全なスペースは確保できている？
- ・トイレの場所は分かりやすく設置されている？
- ・食事と水はいつでも飲める状態？

✓ コミュニケーション

- ・優しく話しかけている？
- ・無理に触ったり、抱きしめたりしていない？
- ・遊びを通して信頼関係を築けている？

✓ 健康管理

- ・食欲は正常？
- ・排泄はスムーズ？
- ・元気がない、ぐったりしているなどの異変はない？

✓ トレーニング

- ・トイレトレーニングは順調？
- ・甘噛みなどの問題行動はない？

- ・褒めることと無視することを意識している？

⚠️ よくある失敗と注意

- ・過剰な構いすぎ…可愛さのあまり、四六時中構ってしまうのはNG。ワンちゃんが休む時間も大切です。
- ・急な環境の変化…フードの種類を急に変えたり、無理に散歩に連れて行ったりするのは避けましょう。
- ・他の犬との無理な接触…ワクチン接種が終わるまでは、他の犬との接触は控えましょう。
- ・人間の食べ物を与える…人間の食べ物はワンちゃんにとって有害な場合があるので、絶対に与えないでください。
- ・叱りすぎ…ワンちゃんを叱りすぎると、恐怖心を与えてしまい、信頼関係を損なう可能性があります。
- ・放置しすぎ…かまいすぎも良くありませんが、放置しすぎるのも良くありません。適度なコミュニケーションを取りましょう。

🎯 1分まとめ

🐕 迎え入れ初日は、静かに見守り、自由に探検させよう。

🚽 トイレの場所を教え、成功したら褒めてあげよう。

🍲 食事は同じフードを与え、徐々に新しいフードに切り替えよう。

😴 安心できる寝床を用意し、夜鳴きには優しく対応しよう。

散歩は短い時間から始め、安全な場所を選ぼう。

♥ 愛情をたっぷり注ぎ、信頼関係を築こう。

第2話..安心できる居場所作り（寝床 ・ ケージ ・ 隠れ家）

こんにちは、愛犬家の皆さん。第2話では、わんちゃんが安心して過ごせる居場所作りについて解説します。寝床、ケージ、隠れ家…これらは単なるスペースではなく、わんちゃんの心と体の健康を支える大切な要素です。この記事を読めば、愛犬にとって最高の安心空間を作れるはずです。

✓ 今日の結論

わんちゃんが安心して過ごせる居場所とは、安全、快適、そして心の平穏を提供できる空間のこと。寝床、ケージ、隠れ家を適切に用意し、わんちゃんの性格や好みに合わせてカスタマイズすることで、愛犬の幸福度を格段に向上させることができます。

💡 なぜこの問題が起きるのか

わんちゃんにとって安心できる居場所がないと、様々な問題が起こる可能性があります。

🏠 ストレスと不安..

- ・常に周囲の状況に警戒し、リラックスできない
- ・分離不安や恐怖症が悪化することも

🐾 問題行動の増加..

- ・吠え、噛みつき、破壊行動など
- ・ストレスが原因で攻撃的になる場合も

健康問題

- ・免疫力低下、消化器系の不調
- ・皮膚炎などの皮膚トラブルも

これらの問題は、わんちゃんが安心して休める場所がないことが原因かもしれません。野生の犬は、外敵から身を守り、天候の変化を避けるために、安全な巣穴を作ります。家庭犬も同様に、安心できる場所を必要としているのです。

具体的なやり方 ・コツ

安心できる居場所を作るための具体的な方法とコツをご紹介します。

寝床の作り方

- ・ソフトな素材：ふかふかのベッドやクッションを用意
- ・適切なサイズ：わんちゃんが丸まったり、伸びたりできる広さ
- ・静かな場所：人通りが少なく、騒音の少ない場所を選ぶ
- ・温度管理：夏は涼しく、冬は暖かい場所を選ぶ
- ・清潔さ：定期的に洗濯し、清潔に保つ
- ・複数の選択肢：好みに合わせて、いくつかの寝床を用意するのも良い

ケージの活用法

- ・安全な空間：ドアを閉めても怖がらないように、慣れさせる
- ・ポジティブな印象：おやつやオモチャを与え、楽しい場所と認識させる
- ・適切なサイズ：立って方向転換できる広さ
- ・快適な環境：ベッドや毛布を敷き、快適な空間を作る
- ・開放時間：長時間閉じ込めず、自由に過ごせる時間も作る
- ・クレートトレーニング：車での移動や災害時にも役立つ

隠れ家の作り方

- ・静かで暗い場所：物置やクローゼットの一角を利用
- ・安心できる素材：毛布やタオルケットで覆う
- ・出入り自由：いつでも自由に出入りできるようにする
- ・お気に入りのおもちゃ：安心できるおもちゃを置いておく
- ・音の遮断：外の音が聞こえにくいように工夫する
- ・緊急時の避難場所：雷や花火など、大きな音が苦手な場合に有効

その他のコツ

- ・フェロモン製品：フェリウェイなどの犬用フェロモン製品を使用する
- ・音楽療法：リラックス効果のある音楽を流す

- ・アロマテラピー…ラベンダーやカモミールなど、リラックス効果のあるアロマを使用する（犬に安全なものを選ぶ）

- ・飼い主の匂い…飼い主の匂いがついた衣類やタオルを置いておく

- ・ポジティブな強化…居場所でもリラックスしている時に褒めたり、おやつを与えたりする

チェックポイント

居場所を作る上で、以下の点をチェックしてみましょう。

✓ サイズ…

- ・寝床、ケージ、隠れ家は、わんちゃんにとって十分な広さですか？

- ・狭すぎるとストレスの原因になります

✓ 素材…

- ・ベッドや毛布の素材は、わんちゃんが快適に過ごせるものですか？

- ・肌触りの良い、通気性の良い素材を選びましょう

✓ 場所…

- ・居場所は、静かで落ち着ける場所にありますか？

- ・騒がしい場所や、人通りの多い場所は避けましょう

✓ 清潔さ…

- ・居場所は清潔に保たれていますか？

・定期的に掃除や洗濯をしましょう

✓
安全性

・居場所に危険なものはありませんか？

・電気コードや、誤飲の可能性があるものは片付けましょう

✓
好み

・わんちゃんは、その居場所を気に入っていますか？

・好みに合わせて、カスタマイズしましょう

✓
慣れ

・わんちゃんは、その居場所に慣れていますか？

・無理強いせず、徐々に慣らしていきましょう

⚠
よくある失敗と注意

居場所作りでよくある失敗と、注意すべき点をご紹介します。

♥
無理強い

・わんちゃんが嫌がるのに、無理やり居場所に閉じ込める

・居場所を嫌いになる原因になります

🧹
清潔すぎ

- ・常に清潔に保つことは大切ですが、匂いを完全に消してしまう
- ・自分の匂いがなく、落ち着かないと感ずること

騒音

- ・テレビやオーディオの近くに居場所を作る
- ・リラックスできない原因になります

温度管理の失敗

- ・夏は暑すぎ、冬は寒すぎる場所に居場所を作る
- ・体調を崩す原因になります

他の動物や子供の干渉

- ・他のペットや子供が、わんちゃんや猫ちゃんの居場所を邪魔する
- ・安心して休めない原因になります

危険物の放置

- ・電気コードや、誤飲の可能性があるものを放置する
- ・事故の原因になります

放置

- ・居場所を作っただけで、放置してしまう

・定期的に様子を見て、改善点を見つけましょう

 1分まとめ

- ✓ 安心できる居場所は、わんちゃんの心と体の健康に不可欠
- ✓ 寝床、ケージ、隠れ家を適切に用意し、カスタマイズ
- ✓ 安全、快適、静かな場所を選び、清潔に保つ
- ✓ 無理強いせず、ポジティブな印象を与える
- ✓ 定期的に見直し、改善する

今回の記事が、愛犬とのより良い生活の一助となれば幸いです。

次回のテーマは「食事の基本と栄養管理」です。お楽しみに！

第3話…トイレの教え方と失敗時のリカバリ

犬との生活で、トイレトレーニングは最初の難関です。成功すれば、その後の生活がずっと快適になります。この記事では、犬にトイレを教えるためのステップと、失敗した場合の対処法を具体的に解説します。焦らず、根気強く取り組むことが大切です。

✓ 今日の結論

犬のトイレトレーニングは、一貫したルールと褒めることが重要です。失敗しても叱らず、原因を特定して改善策を講じましょう。

💡 なぜこの問題が起きるのか

犬がトイレを失敗する原因は様々です。

- ・ 月齢…子犬は膀胱のコントロールが未熟です。
- ・ 環境の変化…引っ越しや新しい家具の導入はストレスになります。
- ・ 不安…分離不安や雷など、特定の状況で失敗することがあります。
- ・ 病気…膀胱炎や尿路結石などの病気が原因の場合もあります。
- ・ トイレの場所…犬が落ち着いて排泄できる場所でない可能性があります。
- ・ 飼い主の注意不足…排泄のサインを見逃しているかもしれません。
- ・ 過去のトラウマ…過去の失敗で叱られた経験がトラウマになっていることも。
- ・ 学習不足…教え方が一貫していないと、犬は混乱します。

- ・年齢…老犬になると、排泄のコントロールが難しくなることがあります。

- ・運動不足…運動不足は、排泄のリズムを崩す原因になります。

 具体的なやり方 ・コツ

トイレトレーニングを成功させるための具体的な方法を紹介します。

1 トイレの場所を決める

- ・静かで落ち着ける場所に設置しましょう。
- ・人通りの多い場所や騒がしい場所は避けます。
- ・ケージの中や犬がよく寝る場所の近くが良いでしょう。
- ・度場所を決めたら、安易に変えないようにしましょう。
- ・トイレシートやペットシートを使用します。

2 トイレのタイミングを見極める

- ・食後、起床後、遊んだ後など、排泄しやすいタイミングでトイレに連れて行きます。
- ・犬がそわそわしたり、床の匂いを嗅ぎ回ったりするサインを見逃さないようにしましょう。
- ・サークルやケージから出して、直接トイレの場所へ誘導します。
- ・タイミングを記録しておく、予測しやすくなります。
- ・子犬の場合は、特にこまめにトイレに連れて行きましょう。

3 トイレのサインを教える

- ・排泄する時に「ワンツ」などの合図をかけます。
- ・毎回同じ言葉を使うことで、犬は言葉と行動を結びつけます。
- ・排泄が終わったら、褒めてご褒美を与えます。
- ・褒める時は、大げさなくらい喜びましょう。
- ・ご褒美は、おやつや犬が喜ぶものであれば何でも構いません。

4 褒めること、ご褒美を与える

- ・成功したら、すぐに褒めてご褒美を与えましょう。
- ・褒める言葉は「良い子だね」「よくできたね」など、犬が理解しやすい言葉を選びます。
- ・ご褒美は、小さくカットしたおやつや、おもちゃなどが効果的です。
- ・褒める時は、撫でたり抱きしめたりするのも良いでしょう。
- ・褒めることとご褒美を与えることで、犬はトイレをすること＝良いことだと学習します。

5 失敗しても決して叱らない

- ・失敗しても、犬を叱ってはいけません。
- ・叱ることは、犬に恐怖心を与え、トイレをすること自体を嫌がるようになる可能性があります。
- ・失敗した場所を黙って掃除し、消臭剤などで匂いを消しましょう。

- ・匂いが残っていると、同じ場所で排泄してしまうことがあります。
- ・失敗した原因を考え、改善策を講じましょう。

サークルやケージを活用する

- ・サークルやケージは、犬にとって安心できる場所です。
- ・トイレトレーニング中は、サークルやケージの中にトイレを設置しましょう。
- ・犬は自分の寝床を汚したくないという習性があるため、トイレを我慢することがあります。
- ・サークルやケージから出す時は、必ずトイレに連れて行きましょう。
- ・サークルやケージの中で排泄したら、すぐに褒めてご褒美を与えましょう。

根気強く続ける

- ・トイレトレーニングは、時間がかかるものです。
- ・焦らず、根気強く続けることが大切です。
- ・犬のペースに合わせて、ゆっくりと進めていきましょう。
- ・うまくいかない時は、一度立ち止まって、やり方を見直してみましょう。
- ・諦めずに続けることで、必ず成功します。

チェックポイント

トイレトレーニングの進捗状況を確認するためのチェックポイントです。

- ・トイレの場所は適切ですか？
- ・トイレのタイミングは把握できていますか？
- ・トイレのサインを見逃していませんか？
- ・褒めることとご褒美を与えるタイミングは適切ですか？
- ・失敗した時に、叱っていませんか？
- ・サークルやケージは活用していますか？
- ・根気強く続けていますか？
- ・病気の可能性はありませんか？
- ・環境の変化はありませんか？
- ・犬のストレスは軽減されていますか？

 よくある失敗と注意

トイレトレーニングでよくある失敗例と、その対策を紹介します。

- ・失敗例 1…トイレの場所を嫌がる
- ・対策…トイレの場所を変えてみる、トイレシートの種類を変えてみる、トイレの周りを清潔に保つ。
- ・失敗例 2…トイレのタイミングが合わない
- ・対策…排泄のタイミングを記録する、食後や起床後など、排泄しやすいタイミングでトイレに連れて行く。

- ・失敗例3…褒めてもご褒美を与えても効果がない

- ・対策…ご褒美の種類を変えてみる、褒め方を工夫する、犬が本当に喜ぶことを見つける。

- ・失敗例4…失敗した時に叱ってしまう

- ・対策…深呼吸をして冷静になる、失敗した原因を考える、叱る代わりに褒めることを意識する。

- ・失敗例5…トレーニングが長続きしない

- ・対策…目標を小さく区切る、毎日少しずつトレーニングする、家族みんなで協力する。

- ・注意点1…焦らないこと

- ・トイレトレーニングは時間がかかるものだど理解しましょう。

- ・注意点2…体罰は絶対にしないこと

- ・体罰は犬に恐怖心を与え、逆効果です。

- ・注意点3…病気の可能性を考慮すること

- ・頻繁にトイレに行く、血尿が出るなどの症状がある場合は、獣医さんに相談しましょう。

- ・注意点4…環境の変化に注意すること

- ・引っ越しや模様替えなど、環境の変化は犬にストレスを与えます。

- ・注意点5…犬のペースに合わせて進めること

- ・犬の性格や成長に合わせて、トレーニングのペースを調整しましょう。

1分まとめ

- 🕒 トイレの場所は静かで落ち着ける場所に
- 🕒 食後や起床後など、タイミングを見計らってトイレへ
- 🕒 排泄したら褒めてご褒美！
- 🕒 失敗しても絶対に叱らない
- 🕒 サークルやケージを上手に活用
- 🕒 焦らず根気強く続けることが成功の秘訣
- 🕒 不安な場合は獣医さんや

専門家に相談を

 トイレトレーニングは犬との絆を深めるチャンスです。頑張ってください！

第4話…ごはんの選び方（年齢 ・ 体格 ・ 体調）

犬の健康を左右する食事、何を基準に選んでいますか？ ドッグフードの種類は星の数ほどあり、どれが愛犬に最適か迷いますよね。今回は、年齢、体格、体調という3つの要素から、最適なごはんを選ぶ方法を徹底解説します。この記事を読めば、愛犬にピッタリの食事がきつと見つかるはずですよ。

✓ 今日の結論

愛犬の年齢、体格、体調に合わせて、最適な栄養バランスのドッグフードを選びましょう。 特に、ライフステージの変化や体調不良時には、こまめな見直しが大切です。

 なぜこの問題が起きるのか

多くの飼い主さんが、ごはん選びでつまづく原因は主に3つあります。

* 情報過多…インターネットや雑誌には情報が溢れています。信憑性が低いものも混ざっています。どれを信じて良いかわからず、混乱してしまうことがあります。

* 誤った知識…犬の栄養に関する知識が不足していると、パッケージの謳い文句や価格だけで判断してしまいがちです。

* 愛情の裏返し…愛犬に「喜んでほしい」という気持ちが強すぎると、嗜好性ばかりを重視してしまい、栄養バランスが偏ってしまっていることがあります。

これらの原因を解消し、正しい知識を身につけることで、愛犬にとって本当に必要なごはんを選べるようになります。

 具体的なやり方 ・ コツ

年齢、体格、体調に合わせてごはんを選ぶための具体的な方法とコツを見ていきましょう。

1. 年齢別…ライフステージに合わせた栄養バランス

犬の一生は、子犬期、成犬期、シニア期と大きく3つのステージに分けられます。それぞれのステージに必要な栄養素が異なるため、年齢に合ったドッグフードを選びましょう。

* 子犬期（離乳後〜1歳）…成長のために高タンパク質、高カロリーなフードを選びましょう。骨格形成に必要なカルシウムやリンも重要です。

* 成犬期（1歳〜7歳）…健康維持に必要な栄養バランスの取れたフードを選びましょう。運動量や犬種によって、カロリー調整が必要です。

* シニア期（7歳〜）…消化吸収の良い、低カロリー、高タンパク質のフードを選びましょう。関節の健康をサポートする成分（グルコサミン、コンドロイチン）が含まれていると尚良いです。

2. 体格別…小型犬、中型犬、大型犬それぞれの注意点

犬の体格によって、適切なフードの粒の大きさやカロリーが異なります。

* 小型犬…口が小さく、消化器官もデリケートなため、小粒で消化しやすいフードを選びましょう。

* 中型犬…活動的な犬種が多いため、運動量に合わせてカロリー調整が必要です。バランスの取れた総合栄養食を選びましょう。



* 大型犬…関節に負担がかかりやすいため、関節ケア成分配合のフードを選びましょう。成長期には、適切なカルシウム量を守ることが大切です。

3. 体調別…アレルギー、肥満、消化不良…症状に合わせた食事

愛犬の体調に合わせて、療法食や特別食を検討しましょう。

* アレルギー…原因となるタンパク質（鶏肉、牛肉など）を含まない、アレルギー対応フードを選びましょう。食物アレルギー検査で原因を特定することが重要です。🐟

* 肥満…低カロリー、高食物繊維のフードを選びましょう。食事量のコントロールと運動も大切です。🍃

* 消化不良…消化しやすい原材料を使用したフードや、消化酵素配合のフードを選びましょう。下痢や嘔吐が続く場合は、獣医さんに相談しましょう。🍷

ごはん選びに迷ったら、獣医さんに相談するのが一番です。🏠 愛犬の健康状態を把握している獣医さんなら、最適なフードを提案してくれるでしょう。

📋 チェックポイント

ごはんを選ぶ際に確認すべきポイントをまとめました。

* 原材料…主原料は何か、アレルギーの原因となるものが含まれていないかを確認しましょう。🍖

* 成分表示…タンパク質、脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラルのバランスを確認しましょう。📊

* 添加物…着色料、保存料などの添加物はできるだけ少ないものを選びましょう。👩🍳

* 製造国…信頼できる国の製品を選びましょう。J P U S

* 賞味期限…新鮮なものを選びましょう。📅

* 口コミ…実際に使用している人の口コミを参考にしましょう。👤

これらのポイントを参考に、愛犬に合ったごはんを選んであげてください。

⚠️ よくある失敗と注意

ごはん選びでよくある失敗と、注意すべき点をまとめました。

* 安価なフードを選んでしまう…安価なフードは、品質の低い原材料を使用している場合があります。長期的に見ると、健康を害する可能性があります。

* パッケージのイメージだけで選んでしまう…パッケージの可愛さや宣伝文句に惑わされず、原材料や成分表示をしっかりと確認しましょう。

 * 人間の食べ物を与えてしまう…人間の食べ物は、犬にとって塩分や糖分が多すぎたり、中毒症状を引き起こすものもあります。

* 急にごはんを切り替えてしまう…急にごはんを切り替えると、消化不良を起こすことがあります。1週間程度かけて、徐々に新しいフードに切り替えましょう。

* 常に同じフードを与え続ける…犬も人間と同じように、同じもののばかり食べていると飽きてしまいます。ローテーションでフードの種類を変えるのもおすすめです。

愛犬の健康を守るために、これらの点に注意してごはんを選びましょう。

1分まとめ

* 年齢、体格、体調に合わせて、最適なドッグフードを選びましょう。

* ライフステージの変化や体調不良時には、こまめな見直しが大切です。

* 原材料、成分表示、添加物などをしっかりと確認しましょう。

* ごはん選びに迷ったら、獣医さんに相談しましょう。

* 愛犬の健康状態を観察し、変化に気づいたら早めに対応しましょう。

今回の内容を参考に、愛犬が健康で幸せな毎日を送れるように、ごはん選びを工夫してみてください。



第5話…お水をしっかり飲ませる工夫

✓ 今日の結論

犬に十分な水分を摂らせるためには、新鮮な水を常に用意し、様々な工夫で興味を引き出すことが重要です。

💡 なぜこの問題が起きるのか

犬がお水を十分に飲まない背景には、いくつかの理由が考えられます。

💧 水の鮮度…犬は非常に嗅覚が優れています。そのため、古くなった水や不潔な容器に入った水は、飲むのをためらうことがあります。常に新鮮で清潔な水を提供することが大切です。

🔥 水温…冷たすぎる水や熱すぎる水は、犬にとって飲みづらい場合があります。特に、夏場は冷たい水を好む犬もいますが、キンキンに冷えた水は避けるようにしましょう。

🍷 容器の素材と形状…犬によっては、特定の素材や形状の容器を嫌うことがあります。例えば、金属製の容器の匂いが苦手だったり、深すぎる容器で顔を濡らすのを嫌がったりすることがあります。

🦴 疾患…腎臓病や糖尿病などの疾患が原因で、飲水量が変化することがあります。急に飲水量が増えたり減ったりした場合は、獣医さんに相談しましょう。

😓 ストレス…環境の変化や騒音など、犬がストレスを感じる状況では、水を飲むのをためらうことがあります。

🚶 散歩不足…適度な運動は、犬の水分欲求を高めます。運動不足は、水を飲むきっかけを減らしてしまう可能性があります。

👴 加齢…シニア犬は、若い犬に比べて喉の渇きを感じにくくなることがあります。また、関節の痛みなどで水を飲むのが億劫になることもあります。

食事内容…ドライフード中心の食事は、水分摂取量が不足しがちです。ウェットフードや手作り食を取り入れることで、水分補給を促すことができます。

 過去の嫌な経験…過去に水を飲もうとした際に嫌な経験（例えば、水をこぼして怒られたなど）をした犬は、水を飲むこと自体を避けるようになることがあります。

 他の犬との競争…多頭飼育の場合、他の犬に水を奪われるのではないかと感じて、ゆっくりと水を飲めないことがあります。

これらの理由を踏まえて、愛犬がお水を飲まない原因を探り、適切な対策を講じることが大切です。

 具体的なやり方 ・コツ

愛犬にお水を飲んでもらうための具体的な方法とコツをご紹介します。

 複数の場所に水を設置

- ・家の中の様々な場所に水飲み場を設けることで、犬がいつでも気軽に水分補給できる環境を作ります。
- ・特に、犬がよく過ごす場所（リビング、寝室、庭など）に設置するのが効果的です。

 水を新鮮に保つ

- ・1日に数回、水を交換し、常に新鮮な状態を保ちます。
- ・容器も毎日洗い、清潔に保つことが大切です。

 水の温度を工夫

- ・夏場は、水を1つ2つ入れて、少し冷たい水を提供します。ただし、冷たすぎる水は避けてください。
- ・冬場は、常温の水を提供します。